

2026年03月24日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【引き続き、リスクをコントロールする】

昨日(2026年3月23日)からの報道によると、米国とイランの戦争停戦に関する合意は、トランプ大統領は進展していると発言したが、イラン側は、交渉などしていないと、真っ向から否定した。

過去の例から考えると、トランプ大統領の発言がフェイクニュースなのだろう、と判断している。

マーケット(金融市場、株式市場、外国為替市場、商品市場など)は、トランプ大統領の発言に期待を寄せているのだろう。

期待が高まる様子は、マーケットを見ていればわかる。

停戦への期待が高まると、マーケット(上記の様々な市場)は、「リスク・オフ」から「リスク・オン」へチェンジする。

+++++

トランプ大統領の発言は、米国民に対するリップサービスを含んでいるのだ、と考えます。

米国でのガソリン価格の急騰は、米国民のトランプ大統領への支持率を引き下げることになるので、トランプ大統領は、それを避けるために発言しているのだろう、と考えます。

トランプ大統領は、今年(2026年)11月の中間選挙で、自らの勝利を得たいと、強烈に望んでいる、と推測できます。

ところが、トランプ関税が米国の最高裁で違憲(違法)と判決されるなど、自らの支持率を下げる材料が多々出てきています。

「エプスタイン問題」に関するトランプ大統領のスキャンダルも、支持率低下を招いていません。

イランへの戦闘に関しては、早期に決着を付けて、強い米国、強いトランプ大統領を演出したかったのだが、このイランとの戦闘に関しては、トランプ大統領の思惑通りにはいかなかったのだろう、と推測しています。

+++++

日経平均株価を見ると、年初来の最高値から 6,000 円以上も下落しています。

これは、1 割以上の下落です。

この下落が、通常範囲内の値動き（＝調整局面）であり、驚く程ではない（サプライズとは言えない）と仮定しても、1 割以上の下落は、クラッシュと呼んでも良い状態と考えます。

この下落の要因は、米国・イスラエルとイランの戦争であり、それに伴うイランのホルムス海峡封鎖による原油価格等の高騰と言っても良い、と考えます。

+++++

外国為替市場でも、最大の関心事は米国対イランの問題であり、その情勢や、トランプ大統領の発言で右往左往している、と考えます。

現在の状況は、米国・イスラエルとイランの戦争状態が、今後どうなるのか、不透明なままで、何も変わっていない、と考えます。

引き続き、リスクをコントロールして、慎重に対応すべき、と考えています。

+++++

+++++

(2026 年 3 月 24 日東京時間 13 : 40 記述)